

事業所名

社会福祉法人 黒潮会 あいわの里子ども療育センター

支援プログラム

作成日

2024年

8月

1日

法人（事業所）理念	私たちは、社会福祉法人の名に恥じない信頼される組織を目指しています。経営の透明性をもち、活力ある社会福祉の増進に励み、人を大切に、ゆるぎない経営基盤の強化に努めながら、みんなが集う地域の明るい福祉の場となるような法人を、私たちは目指しています。									
支援方針	あいわの里子ども療育センターは鹿児島県阿久根市脇本の自然豊かな場所にある児童発達支援センターです。「丁寧な保育」を「療育」と位置づけ、四季折々の花や虫たち、泥遊びや海遊び、防風林を使った忍者ごっこなど様々な自然を活用した遊びや活動を共に楽しみながら「療育」を行っています。食育として畑で野菜を育て、畑で採れた野菜をクッキングをして食べて楽しむなど多くの体験や経験も通して成長できるようサポートしています。個々の子ども達に寄り添う機会を作りながら、子どもたちそれぞれが主役になれる関りを行い、自信を深め考え活動できる力をつけていけるように支えていく、そんな施設があいわの里子ども療育センターです！									
営業時間	8時	00分	から	18時	00分	まで	送迎実施の有無	あり	なし	
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	お子様の健康のため通院などを必要とする場合、かかりつけ医療機関での健康管理について、看護職員を中心としながら担任職員などで健康状態に関する情報共有を行います。看護職員により服薬や体調管理などについて対応を行うとともに、必要時には吸引などの設備もありますので対応します。体調不良に関する相談など についても随時相談対応を行い、ご家庭での対処や対応についてアドバイスを行います。日常生活における食事・飲水・更衣・トイレトレーニングなどの日常生活習慣については、集団活動の中で保育士や児童指導員、作業療法士や言語聴覚士などの専門職員がその生活場面で確認を行いながら声かけや促しなどを通し、自立していけるように取り組んでいきます。食事については管理栄養士や栄養士も食事状況の確認を行い、栄養の摂取状況などを看護職員などの専門職員とも共有しながら育ちに合わせて食の工夫について取り組んでいきます。生活リズムに関して、睡眠の時間や質・食事のタイミングや量などにご家族様との情報共有を図り、必要に応じて生活リズム表の作成を行い心身状況と行動面との繋がりを明確にしていきます。その中で声かけや促しのポイントなどをご家族様とも共有しながら生活の変化などを確認し、習慣化へ向けた取り組みを 行っていきます。								
	運動・感覚	体幹の使い方やそこに合わせた腕(手)・脚(足)の連携した動かし方など、作業療法士や理学療法士などの専門職員の評価や分析などを元にしなが生活の中で保育士や児童指導員なども生活や遊びの中で上手く活用しながら成長に繋がるよう促しを行っていきます。また、動きや活動のぎこちなさに関して基本的な運動能力からの影響だけでなく、運動を調整するための感覚の過敏性や鈍麻(感じすぎたり鈍く感じたりすること)により上手くできなかつたりすることもあります。日常的な遊びや活動の中で「苦手」と感じている部分を別の遊びや活動を通して感覚の促しをしたり、運動できる力やタイミングの練習をするなど集団や個別の活動を通して自信をつけられるようにサポートを行います。同じ姿勢をじっと保つことが苦手なお子様の中には、筋肉の張りが弱くて疲れやすい「低緊張」という状況や感覚の過敏性で不快感を感じていることが要因となることもありますので、「落ち着かない」という様子が目に映ったものに気持ちが向いてしまう注意力だけではないこともありますので、お子様の状況に合わせて目に入る生活環境の工夫や運動と感覚遊びなどを通して取り組みを行っていきます。どうしても運動や感覚への促しなどで生活面への効果が得られにくい場合においては、環境の代替手段について検討し取り組んでいきます。感覚の過敏性であれば、刺激の少ない座面素材(シーツ素材や低反発材等)や視覚空間の工夫(部屋の広さ、色、模様、備品等)などお子様が自然に受容しやすい環境を整えながら生活を行い、ご家庭での工夫などの共有化をしながら徐々に変化をつけていくなど生活空間への工夫に取り組んでいきます。								
	認知・行動	感覚や運動とも繋がってくるものとなりますが、感覚などから得られた情報をどのように「理解・解釈」⇒「認知」して、「こうしたいと思う」⇒「行動」にしているのかを生活場面から読み取り、支援者が仮説として想定したことをお子様へ確認などをとりながら、お子様・ご家族様・支援者3者の理解を深めていく ことが大切になります。どうしても「行動」として起こってしまった、あるいは「行動が予見できる状況が起こった」ことから、そのタイミングの環境や状況を振り返りお子様の「認知」をひも解いていき、お子様の気持ちや考えを認知として受け止めつつ、その環境や状況との繋がりを積み重ねながら丁寧に3者共有を行う 機会作っていけるように取り組んでいきます。具体的な方法としては、行動の前あるいは後にお子様の気持ちを、支援者が言葉で代弁あるいは確認して受け止め、認知に関する相互共有を進めて子どもたちの安心して表現できる関係を築いていきます。その中で認知して行動したことを確認した上で、伝わりやすい言葉や頭を撫でるなど「褒める」ことを分かりやすく実施することや、どうすればよかったのかを「振り返り」として一緒に考えること、今は何をするとよいのかや危険に繋がる行動の回避など「見通し」を具体的に伝えることなどに取り組んでいきます。この「認知」と「行動」が生活の中でどのように形作られているのかを分析しながら、ご家族様や関係機関の方々と共有し子どもたちの育ちを支えていきます。								
	言語コミュニケーション	子どもたちの成長過程で、意思伝達は家庭での言葉かけや関係・見たり聞いたりしたことの理解・大人との関り・口や喉や体幹の身体的発達など多くの関係しあう要因の中で獲得していく能力といえます。言葉を用いた意思疎通の手段が「言語的コミュニケーション」、言葉によらない表情・ジェスチャー・行動等による意思疎通手段が「非言語的コミュニケーション」という大きく2つの手段を使って私たちはお互いの気持ちや考えを伝え合い、行動や生活を形作っています。コミュニケーションは、伝える「表出」だけでは成り立たず、相手が何を伝えてきたのかが分かる「理解」についても分析を行い、成長過程でこういったポイントから「表出」あるいは「理解」で難しさを感じているかをひも解いていき、絵カード・おもちゃ・遊び・口の動きなどを「お勉強」として楽しく取り組んでいけるようにサポートしていきます。言語やコミュニケーションは、気持ちなどの内面要因やお部屋や空間の環境等の要因により影響を強く受けるお子様もいらっしゃるの、お口の機能的な部分や理解力などに限らず広い視点を持って関り、自分の気持ちや考えを伝え相手のことを理解し、楽しい生活を作っていけるよう支援を行っていきます。								

	人間関係 社会性	人間関係や社会性について、20歳代の成人ですらまだ途上であることも研究や統計から知られてきています。未就学あるいは就学児童においてはより経験が少なく、そのお子様の健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーションの状況により、1つの経験の内容や量によって大きく影響を受けてしまうことが考えられます。成功は成功の基(もと)でありますが、失敗も成功の基(もと)になり得ます。対大人だけでなく、子ども同士でも多くの経験や関りを通していく中で、その関りが成功であったのか失敗であったのか気付き・学びとして未来につなげていけるよう、分かりやすく伝えていくことを「療育」として支援しています。小集団療育で行っている活動や生活の中で、楽しんだり、ケンカしたり、悲しんだり、笑ったり、少しだけサポートしながらそのお子様らしく関われる経験を後押しし、ご家族様や関係機関の方々と一緒に、子どもたちの小さなコミュニティの中で多くの関係性や社会性につながる経験を支え、未来を作っていくお手伝いをさせていただきます。	
	家族支援	主としてご家族様の抱える不安や悩みに寄り添い、個別もしくは家族会等の場を通していく中で、支援状況などにあわせて見通しを共有して考えサポートします。個別での相談支援ケース以外では以下のような支援を行っています。 ・各グループ別の家族会 ・就学を考える会 ・療育参観 療育の様子を見たいというご家族様にも見学など対応を行っています。	移行支援  未就学から就学、学校における進学等において各学校の担任の先生や、担当の先生と情報共有を行い、支援状況から見えている個性や特性について個別支援計画や移行支援シートの作成・提示を行い共有化などを図っています。 放課後等デイサービスでは担当者会議などで共有することが主となっていますが、児童発達支援センターでは担当者会議の他に、公開療育や就学を考える会なども行い移行をサポートしています。
	地域支援・地域連携	未就学及び就学双方において担当者会議を実施していく中で、支援に関わっている関係機関(園様等、保健センター、小学校、中学校、特別支援学校、市町村福祉課や教育課、医療機関等)と顔を合わせ情報共有を行っています。 また、地域の相談支援専門員との連携は不可欠であり、様々な情報を相互に共有しながらより良い支援をタイミングに合わせて実施できるように連携しています。 また、地域の自立支援協議会の児童部会に所属し、地域の共通課題の認識や解決に向けて連携を図り、課題によっては鹿児島県こども総合療育センターなどアドバイザーとして意見を頂戴し、より良い地域としていけるように取り組んでいます。	職員の質の向上  内部研修では療育支援の意見交換、専門職からのサポート視点の共有化、感染対策、災害対策、防犯対策、人権擁護・虐待防止、身体拘束防止など支援者の資質向上に向け毎月1回研修を行っています。 外部研修は研修目標の設定を行いながら研修選択を行い、タイムリーな研修は人選をしながら学びの機会を作り、研修後には内部研修で学びの共有化を図ることで施設全体の資質向上につなげています。 施設の運営においても週1回職員会議を実施し、支援での気づきや見直し、危険箇所への対応や変更情報の共有化などスムーズな療育運営に向けて対応しています。 また、小集団療育において、各職種や役割の洗い出しを行いながら、各グループや専門職など力を入れて取り組んでいくことや役割分担などの見直しを行っています。少しでも余裕を持つことで、子どもたちやご家族様、関係機関の方々と関りにおいて視野を広く持つて対応できるよう取り組んでいます。
	主な行事等	大きな行事として、お泊まり会・お店屋さんごっこ・遠足・クリスマス会・家族会・就学を考える会・療育参観・公開療育などを行っています。 その他にも療育活動の中で、食育クッキング・海あそび・水遊び(プール)・制作・七夕・十五夜・ハロウィーン・畑活動・お正月遊び・ごっこ遊び・サーキット遊びなど多くの活動を季節などに合わせて実施しています。 詳細につきましてはぜひホームページにてご確認ください。	